

# 大会中に起きたルールに関する事例と判断

H29.3.20

事例	種目	事 例	判断と考え方
1	男D	受付締切時間に間に合わないので、替え玉受付をした	【判断】1年間の参加停止、試合中の選手は発覚した時点で失格。 【考え方】さいたま市民テニス大会参加資格細則「大会運営上のペナルティについて」 * 申込者と異なった替え玉、名義貸し、代理参加(名義人、代理人、パートナーも含む)
2	女D	片方の選手が現れないので、コートですっと待っていた。	【判断】すぐに入らなかつた選手に嚴重注意 【考え方】コートに入るよう指示を受けて15分経っても来なかつたら失格(コードオブコンダクト 時間厳守) 【改正】先にコートに入った選手から「相手が来ていない」とレフェリーに申し出があった時から15分計り、来なかつたら失格⇒レフェリーを呼び、早めに対処しましょう。
3	女D	トスで勝ったチームが「私達はコートを取るから、あなた達は何を取る？」トスに負けたチームが「コートサイドはどちらを取りますか？」と尋ねたところ当日は風の強い日だったので「あなた達がサーブを取るか、レシーブを取るか決めてから、どちらのコートにするか決める」と言われたけど、正しいのかという質問があった	【判断】正しくない 【考え方】トスで勝ったチームは「コートを取る」なら「エンド」を先に決めなくてはならない。 (規則9 エンドとサーブの選択) ⇒負けたほうがサーブ・レシーブを先に言う必要はありません。
4	女D	サーブの順番を間違えた	【判断】正しい順番に戻す 【考え方】間違えたまま1ゲームが終わってしまったら、入れ替わったままの順番で行う(規則27 間違いの訂正C)
5	女D	第2サーブのモーションに入ってからレットのときは？	【判断】第1サーブ 【考え方】セカンドサーブのモーションに入ってから(インプレー中)のレットは、第1サーブ(規則23 レット)
6	女D	サーバーがファーストサーブがフォルトで返球されたボールを拾い、セカンドサーブをするサイドを間違えた。レシーバーもそのポジションについたが、サーブを打たれた後間違いに気づきボールを止めた。	【判断】ボールを止めた時点で、止めた方の失点 【考え方】モーションに入る前なら止める事が出来るが、それ以降はインプレーとなり、そのポイント終了後正しいポジションに直す ⇒お互いにポイントやサイド、気をつけましょう。
7	男ベス	サーブがフォルトだったのでハンドシグナルで「フォルト」を伝えて普通に返球。サーバーはハンドシグナルに気付かず、返球されたボールがアウトだったので「アウト」とコールしボールを拾いに行った。レシーバーがその後姿に向かって、「今のはフォルトだった」と言った。サーバーは「コールが遅すぎるからその判断は無効だ」と言う。	【判断】フォルト 【考え方】*セルフジャッジは、相手コートの判断に従わなければならない *判定ははっきりとした大きな声とハンドシグナルを使って速やかに行う(セルフジャッジの方法3)ただし、どちらかだけでも有効 ⇒フォルトの場合は返球せずにネットにかけたりポケットにいれたりしましょう。
8	女S	ポイントが分からなくなる。	【判断】合意できるスコアまでさかのぼり、合意できるポイントを足す(セルフジャッジの方法 10) 【考え方】両者の納得できるところまで戻り、最後のポイントを加える。この事例の場合、ペア二人のうち解っている片方の人の意見だけでよい。⇒サーバーはレシーバーに聞こえる声でその時点のスコアをアナウンスし確認し合いましょう。
9	女S	レシーバーはどこに立ってもよいのか？ダブルスならペアのポジションは？	【判断】よい。(ダブルスのペアも) 【考え方】ネットからレシーバー側なら、コートの内外のどこに立ってもよい。(規則8 サーバーとレシーバー)

10	女D	タイブレークで最初のサーブをアドコートから始めてしまい、両チーム気付かず続行し終了した。	【判断】試合終了してしまったので結果はそのまま 【考え方】タイブレーク・ゲーム中、サービスのサイドが間違っていることに気づいた時は、偶数ポイント→直ちに正しい順番に、奇数ポイント→入れ替わったまま(規則27 間違いの訂正) ⇒タイブレーク・ゲームのやり方を理解しましょう。
11	女D	クレーコートでボールマークの確認する際、相手のコートに入っているか？	【判断】入って確認していい 【考え方】相手にボールマークの確認を要求できる、必要であれば相手コートに入ってボールマークを見てもいい。相手とボールマークが一致した場合、「イン」「アウト」を協議できるが、違った場合は、最初のコールが成立する(セルフジャッジの方法6)
12	女D	オムニコートでボールマークを確認する際、相手のコートに入っているか？	【判断】入ってはいけない。 【考え方】クレーコート以外はボールマークのチェックを行うことは出来ない(セルフジャッジの方法6)
13	MIX	ペアで、ジャッジが食い違った。	【判断】違ったジャッジをしたペアの失点。 【考え方】ダブルスの判定とコールは、1人のプレーヤーが行えば成立する。しかし、ペアの判定が食い違った場合はそのペアの失点となる。(セルフジャッジの方法5)
14	男ベ団	ネット際に落ちたボールを相手が打とうとした時に動いたら「大きな動きは妨害だ」とクレームをつけられた。本人はフェイントのつもりだった。	【判断】妨害にならない。 【考え方】フェイントは妨害にならない。 *インプレー中、相手が故意にそのプレーを妨げた場合は、相手の失点になる。(規則26 妨害)
15		自分のバイザー・サングラス・ボールを落とした時レットをかけられるか？	【判断】かけられない。 【考え方】2016年ルール改定により、自分の落とし物にはかけられない。(セルフジャッジの方法9)
16	女D	ボールを打った後に ラケットがスコアボード(ボールに付ける比較的大きい物)に当たった…	【判断】タッチは取れない。 【考え方】スコアボードはポストの一部と考えない。
17	男D	ガットが切れ、コート外にラケットを取りに行ってしまう、相手からクレーム	【判断】コートの外に出ると、失格となる場合もある。 【考え方】規定の時間内で大会役員がラケットの交換に同行します。また、試合を中断しないで続けることが大切なので、ストリングが切れたままプレーを続け誰かに取ってきてもらうこともできます。
18	女D	試合終了後に相手チームにコーチングがあったとの報告あり。	【判断】コーチングを受けることは出来ない 【考え方】試合中、誰からもコーチングを受けることは出来ない(規則30 コーチング) ⇒試合中にレフェリーを呼び対処してもらう事が出来ます。
19	女S	サイドに振られたボールをやっと取った時に「あっ！」と声が出て返球したら、相手が「アウト」と聞こえボールを止めたが、「入っていませんか？」「入っていましたよ」「アウトって言ったから止めたのに」「言ってません…」	【判断】レット 【考え方】「あっ！」は、アウトにも聞こえる紛らわしい声のため。相手が無意識にプレーを妨げた場合はポイントのやり直しとなる(規則26 妨害) ⇒紛らわしい声は出さないように気を付けましょう。
20	男ベD	ジャッジを巡りトラブル、納得できない一組がリタイア	【判断】失格 【考え方】「納得できない」という理由では、リタイアできない。試合を止めたら失格となる。仮に、サスペンションポイント制があれば対象となる。 大会役員の判定で試合が再開された場合、役員は2ゲーム程度そのコートにとどまり、試合の進行状況を見守る。
21	女ベS	試合途中で「用事があるから帰る」と対戦相手に言い残し、大会本部にリタイアする理由を述べずに帰り、他の試合に参加した。	【判断】厳重注意 【考え方】*試合に勝つためにベストを尽くす、正当な理由なしに進行中の試合を途中でやめてはならない(コードオブコンダクト4.5)

※大会中に起こったルールに関する事例を、2016年版ルールブックの規則、及びさいたま市のルールを基準として纏めました。  
(注)その時の状況の違いにより上記【判断】と違って来る場合もあります。

#### さいたま市テニス協会が主催する試合のローカル・ルール一例

- 1.エンドチェンジは60秒です(通常90秒)
- 2.筋痙攣を含むメディカルタイムアウト3分が取れます(通常筋痙攣は取れない)
- 3.先にコートに入った選手から「相手が来ていない」とレフェリーに申し出が有った時から15分計り来なかったら失格

選手の方々は、ルールを理解し、マナーを守り試合がスムーズに進行できるようご協力をお願いします。

レフェリー又はロービングアンパイヤは、選手からの要請があったらコートに入り、試合がスムーズに進行できるようお手伝いします。

競技部・ルール委員会